

主 題：ユダの勧め②

聖書箇所：ユダの手紙 20-23節

今日はユダの手紙20節から見ていきます。ユダは愛する兄弟たちに、偽教師たちに惑わされることなく信仰者として正しく歩み続けるためにはどうすればいいのかという、この大切な質問に対する答えを与えてくれるのです。惑わす者たちがたくさん教会に入り込んで来ましたが、その中であってどうすれば自分を守ることが出来るのか？ということです。

前回見たのは、17-19節から「神のみことばに立つ」ということでした。どんなときにも私たちはしっかり神のみことばに立ち続けることが必要だと、そのことを見て来ました。人々が与える様々な教えに対して、私たち信仰者は「聖書」というめがねをもって、それらが神の教えに準ずるものかどうかを見極めることが大切だということです。私たちの判断はあくまでも聖書が基準でなければならないのです。どんなに立派な話でも、どんなに感動を与える話であっても、それが聖書が教えていることかどうかを判断しなさいと、ユダは私たちに教えてくれました。

ユダがこのメッセージを与えたのは今からもう約2000年前です。ペテロがそのような偽教師たちが教会に入り込むと預言していた通りに、教会にその人たちが入り込んで来たことを知ってユダはこのメッセージを語ったのです。どうしてこのような偽りの教師たちがはびこり続けるのでしょうか？彼らの働きは止むことはありません。教会に入り込んで教会を惑わすこと、その働きは止むことがないのです。なぜ、この働きが継続して為され続けていくのでしょうか？答えは簡単です。それは、サタンの神に敵対する働きが継続しているからです。

黙示録を学んだときに、私たちはサタンがどういう存在であるかを見ました。黙示録20章で「サタンは惑わすものである」と学んだことを皆さんは憶えておられるでしょう。イエスが地上に帰って来られた後、千年の間王国を築かれます。その間、サタンは「底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を惑わすことのないようにした。」(20:3)と記されています。サタンは千年間閉じ込められる、それは「諸国の民を惑わすことのないように」と言います。また、同じ黙示録20:10には「そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。」と書かれています。ですから、サタンは「惑わすもの」です。創造の初めにあのエバを惑わしたのもサタンでした。神のことばを疑わせるのはサタンの策略です。この「惑わすものサタン」、その手下である偽りの教師たちの手法の一つというのは、教会の中に入り込んで来て人々を惑わし、分裂をもたらすことでした。恐らく、皆さんも想像できると思いますが、もし、教会の中で自分は正しい、自分だけが正しいのだと言う人がいたら、その人は必ず、自分と同じでない人を心の中でさばき始めるでしょう。「あの人は霊的ではない。あの人は世的である。」と、そのようなさばきが始まります。そして、それを放っておくと、自分に同調する人々を集めてそうでない人たちへの非難を口にします。すると、必ず教会の中に分派や分裂が生まれて来ます。

この「自分だけが正しい、自分だけが霊的だ」という、このよううぬぼれ、信仰の自負心は大変危険なものです。こういうプライドというのは宗教家たちの特徴であって、霊的に成長した人の特徴ではないのです。もちろん、私たちは「真理を曲げない、妥協しない」というこの点は譲ることができません。これはそのようなことを言っているのではありません。自分だけはすべての信仰者に比べて優れた信仰者だ、優れたクリスチャンだとするプライドの強い人たち。もし、そのような人がいて「自分が最も霊的である」ともし思っているなら、それはこの人が霊的でないことを証明しているのです。

恐らく、人間的に誇ることがたくさんあった人物の一人はパウロでしょう。彼の家系もそうだし、教育も社会的に見ても彼は人々から称賛されて当然な人間だったでしょう。でも、パウロはそのようなものはすべて「ごみ」と言っています。そして、彼自身が誇ったことは「主イエス・キリスト」でした。「しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してありません。この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。」(ガラテヤ6:14)、これが彼の誇りでした。霊的に成長している人は自分のことを誇りません。却って、自分の罪深さに気付いているゆえに「謙虚に従う者」です。

このプライドについてソロモンはこのように言っています。「愚か者は自分の道を正しいと思う。しかし知恵のある者は忠告を聞き入れる。」と。聞く耳を持っているかどうかです。自分が正しいと思っている人は聞く耳など持っていません。よく私たちもこのことを話すときに、人からの批判が必要だと言います。なぜなら、私たちは変わりたいと願って未だそのプロセスにあるからです。いつもいつも褒められ

ていたら私たちは変わる必要を覚えません。でも、だれかから愛をもって「あなたのこの点がおかしい、弱い。」などと指摘されたなら、私たちはその点について考えます。そして、それが真理であるなら私たちは変えてくださいと願います。そのようにして私たちは変わっていくわけでしょう。

でも、この人たちは人の声に耳を傾けようとしません。自分が考えていることが正しい、自分の思っていることが正しいとするからです。私たちが学ぶべきことは、私たちが正しいかどうかを判断するのは、私たちが何を信じているか、何を思っているかということよりも、神のことばが何を教えているかということです。私たちは神のことばに従う者だからです。自分が正しいと判断することではなくて、神が正しいと言われるかどうかによって判断することが大切なのです。私たちは自分のやりたいことを正しいと信じたい者です。でも、私たち信仰者にとって必要なことは、私がどう思うかではなく、神がどうと言われるか、神が正しいと言われるかどうかです。そのことを私たちは規準として物事を判断することが必要です。

◎「してはならないこと」と「するべきこと」は？ ⇒ 旧約聖書から

覚えていますか？皆さん。イスラエルの民がエジプトを出て約束の地に向かって行くときに、彼らはマラという所にやって来ました。ここにある水は苦くて飲むことができませんでした。すると人々は不平不満を言うわけです。そのマラにおいて主はモーセにこんなことを言われました。出エジプト15：26「そして、仰せられた。「もし、あなたがあなたの神、【主】の声に確かに聞き従い、主が正しいと見られることを行い、またその命令に耳を傾け、そのおきてをことごとく守るなら、わたしはエジプトに下したような病気を何一つあなたの上に下さない。わたしは【主】、あなたをいやす者である。」と。モーセは神が約束した「約束の地」に入ることが赦されませんでした。彼の罪ゆえでした。そこで彼は、これから約束の地に入って行く新しいイスラエルの民に対して神のメッセージを伝えました。それが「申命記」です。その中に「してはならないこと」として告げられたことがこのように書かれています。申命記12：8「あなたがたは、私たちがきょう、ここでしているようにしてはならない。おのおのが自分の正しいと見ることを何でもしている。」、みな自分の目に正しいと思うことをしていたので、そういうことをしてはならないと警告するのです。

では、「すべきこと」は何でしょう？同じ申命記12：25に「…あなたは【主】が正しいと見られることを行わなければならない。…あなたは主が正しいと見られることを行わなければならない。」と、また、13：18にも「あなたは、必ずあなたの神、【主】の御声に聞き従い、私が、きょう、あなたに命じるすべての主の命令を守り、あなたの神、【主】が正しいと見られることを行わなければならない。」、同じことが申命記21：9にも「あなたは、罪のない者の血を流す罪をあなたがたのうちから除き去らなければならない。」

【主】が正しいと見られることをあなたは行わなければならないからである。」と繰り返されています。私たちはもうメッセージを十分に理解しました。神が言われていることは、私たちが正しいか正しくないかではなくて、神の目から見て正しいかどうか、神がどのような判断を下されるのかということです。私たちが選択すべきことは、神が正しいと見られることです。それを行っていきなさいと言うのです。

◎「してはならないこと」と「するべきこと」は？ ⇒ 新約聖書から

旧約聖書は確かにこのように教えてくれています。この教えは旧約だけでなく新約でも同じように記されています。パウロがそのことを告げるのですが、パウロがローマの兄弟たちに教えたレッスンの中にそのことが記されています。皆さんがよくご存じのみことばの一つだと思えます。ローマ12：2、パウロは初めに言います。「してはならないこと」として「この世と調子を合わせてはいけません。」と。なぜ、こんなことを言ったのか？私たちクリスチャンはもう新しく生まれ変わっているからです。だから、新しく生まれ変わった者としてそれにふさわしい生き方をしなさい。かつてのような、神の敵として生きていた生き方をしてはならないと言うのです。この世が奨励する生き方や考え方、価値観などに心を奪われて、主を信じていない人たちと同じように生きてはならない。神を知らないこの世の人々、神に敵対する者たちと同じように生きてはならないと、これがしてはならない命令です。

では、するべきことは何か？12：2は「いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」と続きます。ここに「心」ということばが出て来ているのは、私たちの生き方が変わるのには「心が新しくされる」からです。心が変わられることで、私たちの生き方や行動が変わっていくのです。神が私たちに新しい心をくださったのは、私たちが新しく造られた者として新しく生まれ変わった者として、救われた者として神の栄光を現す生き方を為すためにです。ですから、そのように歩んで行きなさいとパウロは兄弟たちに命じるのですが、パウロはここで私たちに二つのレッスンを与えてくれています。このことを私たちはしっかり覚えておかなければなりません。

(1) 私たちの心を虚しいことに決して向けてはならない

この世の神がお喜びにならない様々なもので私たちの心を満たしてはならないということです。この世は必死になってそのメッセージを私たちに伝え続けます。神が喜ばない生き方に進んでいくように、ありとあらゆるメディアはそのことを伝え続けています。いろんな媒体を通してそのことをします。本を読んでも、これは本当に神の栄光を表わす内容が書かれてあるのか？というところではない物がほとんどです。私たちがそのような世の中の知恵に頼って世の中の生き方に倣って、そして、かつての生き方を生きていくようにとサタンは望んでいるのです。ですから、私たちの心をそのような虚しいものに決して向けてはならないと言うのです。私たちは却って、神のみことばを学んで神のみことばを心に蓄えることです。この世の知恵ではなくて神の知恵に基づいて生きていくことです。

(2) 日々私たちを変えてくださる聖霊なる神に私たちの心を委ね続けていく

聖霊なる神があなたの心を常に支配し続けるように、あなた自身の心を委ね続けていくことです。私たちが神に喜ばれる歩みを為していく時に、間違いなく神の助けが必要です。その方が私たちの心を支配するなら、心から神が喜ばれる行ないのことばが出て来るのです。

このローマ 12 : 2 で注意していただきたいのは「わきまえ知る」ということばです。これは「何かを見出す、確証する、見分けることができる」という意味があります。つまり、パウロが言うのは「私たちは神のみことばを知ることができる」ということです。全知全能の神、私たちの主なる神のみことばを私たちは知ることができると彼は教えるのです。

また、このみことばの初めに「いや、むしろ」という前置詞が付いています。この前置詞は「目的や結果を現わすことば」です。ですから、パウロがここで言いたいことは、もし、あなたが自分の心を主にささげるなら、このような結果が伴うということです。虚しいものに心を向けて世に染まってしまうのではなく、私たちの心を主にささげて歩んでいくときに、私たちはみことばに沿って生きる者になるというのがパウロの教えです。心を主にささげることによって、みことばに沿って生きる者になると言います。そのときに、私たちは主なる神の栄光を現すことができるのです。

この偽りの教師たち、彼らは神のみことばに逆らい続け、聖書の教えよりも自分の考えを優先して生きている人たちでした。ですから、彼らは聖書の教えを聞いたとしても自分の考えを変えようとしません。その理由は前回見ました。なぜ、彼らはみことばに心を開かないのか？なぜ、みことばに従っていかうとしないのか？その理由は「彼らのうちには聖霊が内住していないから」、つまり、「救われていないから」だと言います。救われていない人が神に従おうなどという思いを持つことはありません。却って、彼らは自分たちが仕えるサタンが喜ぶようにそのような歩みを継続するのです。彼らは主のみことばが為されることを何とか阻止しようと熱心に働くのです。その手段の一つが「分裂や分派を作って教会の一致を乱そうとする」ことです。

皆さん、教会が一つになっているなら、その教会は神の栄光を現します。みことばが教えるように、教会が一つになっているなら、主イエス・キリストを知らない人たちはそこにイエス・キリストを見るのです。だから、サタンはそれを望まないのです。何とかそれを阻止しようとするのです。そのため

に、このような偽りの教師たちを用いることをし、また、その人たちによって惑わされた人たちを使って、様々な一致を乱す働きを為すのです。パウロが言った通りのことです。使徒の働き 20 : 29、30

「:29 私が出発したあと、狂暴な狼があなたがたの中に入り込んで来て、群れを荒らし回ることを、私は知っています。:30 あなたがた自身の中からも、いろいろな曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こるでしょう。」、いろいろな曲がったことを語って人々を惑わすだけでなく、自分たちのほうに引き込もうとする。そうして教会の中に多くの分派が起こって来るのです。「私はこの人は好きだからこの人についていこう」とか「あの人が嫌いだからあの人にはつかない」と、そんな世間的なことで教会の一致が乱れていくのです。

ユダは私たちにこのような嘲者たち、偽教師たちが教会の中に入り込んで来て分裂や分派を作り出すと、そのことを警告しました。そのことを私たちにこうして示してくれています。確かに、神が喜ばれない働きが教会の中にあります。正直に言って、分裂がある教会はたくさん存在しています。皆さん、パウロは私たちにこの分裂に関して、これは悲しい現実なのですが、この分裂に関して驚くべきメッセージを与えてくれています。

◎教会の分裂に関してパウロが教えること I コリント 11 : 17-19

コリントの教会は大変な問題がありました。この教会には一致がなかったのです。みな自負心が強く利己主義が幅を利かせていました。人に対してへりくだることも、互いに仕え合うこともできない群れだったのです。そのため教理的なことも含めて口論や論争が絶えない群れでした。その原因は、偽りの教師たちの惑わしもあったのですが、悲しいことに、この教会の信仰者たちの信仰が未熟だったのです。I コリント 11 : 17、18 を見てください。「:17 ところで、聞いていただくことがあります。私は

あなたがたをほめません。あなたがたの集まりが益にならないで、かえって害になっているからです。：18 まず第一に、あなたがたが教会の集まりをするとき、あなたがたの間には分裂があると聞いています。ある程度は、それを信じます。」、分裂があることをパウロは耳にしたのです。そして、起こり得る、あり得ると思っ

ていることをここに記しています。続く19節「**というのは、あなたがたの中でほんとうの信者が明らかにされるためには、分派が起こるのもやむをえないからです。**」と。

この「やむをえない」という動詞は新約聖書の中に101回出て来ることばです。「必要である」と訳せることばです。「ある目的を達成するために～をする必要がある」という意味です。たくさん出て来ることばですが、一例を上げると、イエスが自分が十字架に掛かってその後復活すると話をされたときを思い出してください。このように言われました。ルカ9：22「**人の子は、必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、殺され、そして三日目によみがえらねばならないのです。**」、この「**ねばならない**」ということばが、今見ている「やむをえない」です。「必要だ」ということばです。つまり、イエスは罪の身代わりとなって十字架に掛かること、三日後によみがえること、これが罪人の救いのためには必要だと言われたのです。私たち罪人を救うために「**十字架と復活が必要だ**」ということをお語りになったのです。

先程のIコリント11：19で、実は、サタンがもたらす分裂をも主権者なる神はご自分の目的のために用いられると、そのことをパウロは言っています。実は、それも必要だ、分派が起こることも必要だと言うのです。その理由は「**というのは、あなたがたの中でほんとうの信者が明らかにされるためには、**」と書かれています。この「**明らかにされる**」とは「**はっきりと知られる、証拠**」という意味があります。何が明らかにされるのか？「**ほんとうの信者が**」と書かれています。このことばは新改訳聖書の欄外に直訳として「**試験済みのもの**」と注釈が記されています。「**ほんとうの信者**」と訳されているこのことばは「**試験にパスする**」ということばです。高価な金属が火によって試され純粋であることを証明されたということばです。その当時、例えば、金や銀などの高価な金属が純粋であるかどうかを試す方法は「溶かす」ことでした。そうすると不純物が上がって来るからです。それが少なければ純度が高いわけです。その意味のことばがここで使われているのです。ここで「**ほんとうの信者が**」と書かれてあるのは、救われている信者とそうでない信者が区別できるということではありません。ここで言われていることは、「**信仰者の真の価値が明らかにされるために**」このような分派も必要だということばです。

例えば、教会の中で何か気に入らないことがあったとしましょう。そうするとその人には次のうちのどちらかの選択が生じます。(1) 神が喜ばれる選択か、もしくは(2) サタンが喜ぶ選択かのどちらかです。中間はないのです。

◎どちらかの選択

(1) **神が喜ばれる選択をする人** : 感情ではなく主に心を支配していただいているので冷静に神がお喜びになることを選択します。いろいろな辛いことがあるかもしれない、いやなことがあるかもしれない。でも、その中でその人は考えるのです。どちらの選択が神の前に喜ばれることなのか？と。怒りという感情が出て来ているかもしれませんが、でも、その感情がコントロールするのではなくて、神の前に何が喜ばれるのかを考えて冷静に見極めてそのことを選択するのです。この人はまさに神が喜ばれることを選択するのです。

(2) **サタンが喜ぶことを選択する人** : 神ではなく、心を支配している感情によって自らの言動が操られてしまい、主のみこころを冷静に判断することができなくなっています。そして、みことばを使うかもしれない。でも、心の中では分かっているのです。自分の中には自分をコントロールしている怒りが存在していることを。

パウロが教えることは、確かに、このような分裂や分派が生じるときには、間違いなく、その中で「**あなたはどちらにつくの？**」と、人々への非難が出て来たり、だれかを責めることばが出て来たりします。そのときに選択が生じるのです。いろいろなことを言われるかもしれないし、いろいろな誘いがあるかもしれないし、いっしょになってその人を非難するようにという働きがあるかもしれない。けれども、その人はそういうことは神がお喜びにならない、神が喜ばれることを選択しましょうとなります。そのことによって、その人の本当の霊性が明らかになるのです。その行為がその人は「**霊的な人だ、霊的な判断ができる人だ**」ということばを明らかにするのです。

でも、ある人は友だちがそのように言って来たからいっしょになって「**そうね、あの人はひどいね**」と言うかもしれません。それはその人は霊的において未だ幼いことを明らかにするのです。いろいろなことが周りに起こりますが、あなたが決めるのです。選択はあなたがするのです。神の前に正しい選択をして神に喜んでいただくのか、そうでない選択をしてサタンを喜ばせるのか？パウロが教えてくれたことは、悲しいことに分裂、分派が起こって来る、そこに集まっている人間は罪人だし、また、このようなことを意図的に教会の中に持ち込んで来る偽りの教師がいるということばです。でも、私たちが見

たように、神は確かに主権者です。このような人たちの悪でさえも使って神ご自身の目的を果たすことをされるのです。この箇所から私たちはそのことを教えられます。

いろいろな問題が生じた時に、一人ひとりの霊的な状態が明らかになると言います。私たちが教会のリーダーとして選んで来た人たちは、いろいろなことがあったとしても神のみことばに立って、神が喜ばれることはいったい何かを判断してそれを選択できる、そのような人たちです。それはその人が霊的に大人であることを証明するのです。ここで二つのことを教訓として覚えてください。このような問題を私たちは避けて通ることはできません。悲しいことに、私たちの弱さは「この人が好き、でも、あの人はそうでない」というような感情に流されてしまうことです。その弱さがあります。

◎信仰者として覚えるべきこと

(1) 自分自身が罪の原因とならない

イエスはマタイの福音書18章で「**つまずきを与えるこの世はわざわざいだ。つまずきが起こるのは避けられないが、つまずきをもたらす者はわざわざいだ。**」(18:7)と言われました。悲しいことに、「つまずき」は起こってしまうが、その原因となる人はわざわざいだ、不幸だと言っているのです。「つまずかせる」とは「罪を犯させる、罪に誘う」ということです。自分が罪を犯すだけでなく、人にも働いて人が罪を犯すように仕向ける人、その人はわざわざいだということです。そういう人にならないことです。私たち

が常に正しい選択をするように、人々を罪に導くようなそんな存在であってはならないのです。

(2) 自分自身が罪の誘惑に惑わされない

ユダが教えたように、どんな時でも私たちはしっかりと神の真理であるみことばに立つことです。分裂が生じようと、それらに惑わされることなく、みことばにしっかりと立ち、主を信頼して正しく歩み続けていくことです。そのように生きていきなさい、あなたは信仰者として主に対する責任を負っているのです。この主に対して正しく生きていきなさいと言われるのです。

今日のテキストに戻って、最初に話した通り、ユダは17-19節で「神の真理、みことばに立ちなさい」ということを教えました。続く20-23節は「神の真理、みことばを生きること」を命じるのです。ただそのことを知って、そして、みことばをもって正しいかどうかを判断するだけでなく、神のみことばにあなた自身が従って生きていきなさい、それがあなた自身を間違いから守る術であると言うのです。20-23節に五つのことが記されています。

☆神の真理、みことばに生きるために

1. 霊的成長に努める 20節

20節「**しかし、愛する人々よ。あなたがたは、自分の持っている最も聖い信仰の上に自分自身を築き上げ、**」、「**あなたがたは、自分の持っている最も聖い信仰の上に**」とあります。この「最も聖い信仰」こそ神からいただいたものです。3節でユダは「…聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、」と言いました。もう学んで来たように、私たちはこの「救い」というものは自分たちの努力で勝ち取ったものではありません。神が私たちにくださったものです。聖い神がくださったものだから聖い信仰なのです。最も聖い神からいただいた信仰、その信仰をいただいた私たちはその上に自分自身を築き上げていきなさいと言うのです。つまり、霊的に成長するということです。イエスを信じて罪の赦しをいただいた、それがすべての終わりではなくスタートです。主は私たちが信仰において成長することを望んでおられるし、そのことを命じておられます。

このことをパウロ自身が記したコロサイ2:7から学んでいきましょう。ユダが20節で「最も聖い信仰の上に自分自身を築き上げ、」と言ったこの「築き上げる」という動詞は新約聖書には7回出て来ますが、その中の一つが今から見ようとしているコロサイ2:7です。「**キリストの中に根ざし、また建てられ、また、教えられたとおり信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。**」、この「建てられ」ということばが、ユダの手紙で「築き上げ」と訳されていることばです。コロサイ書では「建てられ」と訳されています。この2章7節は「**神に祝福された人生を送るためのアドバイス**」が書かれています。どうすれば神が祝してくださる人生を送ることができるのか？どのような歩みを神は望んでおられるのか？パウロは三つのことを教えています。それを今から見えていきましょう。

◎神に祝された人生を送るためのカギ

1) **キリストの中に根ざし** : これは「信じる」ということです。これこそが本当のクリスチャンのことです。木が成長するためにはしっかりと根を張らなくてはなりません。私たちもキリストの中に根を張ることです。キリストと個人的な関係を持つということです。イエスを信じたときにこのようなわざが為されるのです。キリストの中に根ざすのです。この動詞は受け身、受動態です。ですから、私たちが努力してそうなるのではなく、神がそのようにしてくださるのです。神がそのようなみわざを為してくださる。しかもこの動詞を完了形で書いています。なぜなら、このキリストの中に根ざしたのは信仰

者の場合過去の一回切りの出来事だからです。1年前か10年前か、あるいは、3日前か分かりませんが過去の事です。完了形というのは過去に起こったことの結果が今も継続しているということです。ですから、キリストの中に根ざしたあなたは今も変わらずキリストの中に根ざし続けているということです。救いとはそういうものです。救いに与った人はその救いを失うことがないからです。そのことをまず、パウロは教えるのです。

2) 建てられ : これは「信仰が成長していく」ということです。先にも少し触れたように、あなたを救ってくださった神は、あなたが信仰において成長することを当然期待しておられます。私たちが子どもが日々成長していくのを見て喜ぶように、神の救いに与った信仰者たちの信仰が成長することを神は間違いなく望んでおられます。Ⅱペテロ3:18には「私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。…」とあり、また、エペソ4:13には「ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。」とあります。神はあなたを救ってくださり、あなたが成長するために必要なものを全部備えてくださった。でも悲しいことに、その成長を妨げるものが神にではなく私たちのうちにあるのです。神はあなたを救ってくださった、新しく生まれ変わらせてくださり、あなたに新しい心をくださった。だから、あなたは新しい歩みを始めていきます。神はあなたを救ってくださりあなたが信仰者として霊的に成長していくために必要なものはすべて備えられているのです。それは何か？聖霊なる神がうちにいます。聖書が与えられています。兄弟姉妹が与えられています。そして、常に神の助けが備えられています。これを「恵み」と言います。

ですから、私たちが成長するために必要なものは全部備えられているのです。でも悲しいことに、その成長を妨げるものが私たちのうちにあるということです。それは何ですか？「罪」です。私たちがそれを拒むのです。私たちは神のみことばではなく自分の考えに従っていきこうとするのです。信仰が成長するためには神のみことばが必要なのに、みことばを学ぼうともしないし聞こうともしない。また、学んだとしてもすぐに忘れてしまうのです。だから、成長しないのです。神はどうすればいいのかを教えてください。悲しいことは、私たちがそれを一方的に無視していることです。

自分の信仰が成長しないのは神のせいではありません。自分のせいです。皆さん、私たちの信仰が成長するという事は、私たちが益々イエスに似た者になっていくということです。イエスに似た者になっていくということは、この神のすばらしさがあなたを通して世に明らかにされていくのです。この事は救われた私たちにとって最も光栄なことではありませんか！あなたも私もこの地上にあってイエスがどんなにすばらしい神であるかを明らかにするのです。そのために用いられるのです。この神が私たちを使ってください。そのために必要なことは「神の恵みによって成長すること」、イエスに似た者に変えられていくことです。

「建てられ」と、救いに与ったあなたが、キリストに根を張ったあなたが成長していくことだと見ました。使徒の働き20:32でパウロはこう言います。「いま私は、あなたがたを神とその恵みのみことばとにゆだねます。みことばは、あなたがたを育成し、すべての聖なるものとされた人々の中であって御国を継がせることができます。」と。みことばを読むこと学ぶこと、そして、実践することがなければ、あなたの信仰は成長しないのです。パウロが教えたことは「信仰が成長する」ということでした。ただ信じるだけでなく、信仰が成長することによって、私たちは神の祝福をいただきながらこの地上を生きることができるのです。

3) 信仰を堅くし : これは「信仰が強固にされていく」ということです。信仰が強化されていくことによって、私たちはいろんな間違っただけの教えに対してもそれが間違っていることを見極めることができます。それだけでなく、どんなことがあってもその信仰が揺るがないのです。悲しいことに、今、私たちの国もそうですが、実は、この6月にアメリカの牧師たちと話をしたときに同じことが言われるのですが、それは「教会の中で教理を教えることが少なくなった」ということです。いい話を聞いて何となく満たされた気持ちになってそれぞれ家に帰っていく、それでは私たちの信仰の力にはならないのです。私たちは「なぜイエスだけが救い主なのか？なぜ聖書が神のことばであるのか？」、これらを説明できますか？それは聖書が教えていることです。

でも、人からそう教えられたからただそのように信じているだけではありませんか？私たちは成長することによって、イエス・キリストだけが救い主で他にはありませんと、聖書は神のおことばでありここには間違いが記されていないと、そのように確信をもって伝えることができます。みことばからその説明をすることができます。揺るがない信仰者へと変えられていくのです。

もう一つ見ていただきたいのはこの後に続くことばです。こうして、神の祝福をいただきながら歩いていくためには何が必要かを見て来ました。信じること、成長すること、そして、その信仰が揺るがない強力なもの強固なものになっていくことも見ましたが、その後「あふれるばかり感謝しなさい」と書

かれています。この「あふれるばかり」と訳されていることは「過度の、勝る、優れる」という意味で、ちょうど、水が堤防を越えて来るように、溢れ出て来るようにと、そのような意味をもったことばです。パウロはこのことばが大好きで26回も使っています。何が溢れ出て来るのか？感謝が溢れ出て来ると言うのです。つまり、救いに与り、霊的に成長し、そして、その信仰が強固なものである、そのような信仰者になればなるほどその人の内側から感謝が溢れ出て来るということです。そんな信仰者へと神は私たちを変えていかれるし、成長させていってくださるのです。なぜなら、この「救いを求めること」、「成長すること」、「強固なものになる」、これらはすべて受け身だからです。

つまり、パウロのこのメッセージは、神はこのような働きをしてくださるということです。では、私たち信仰者の責任は何でしょう？このようなことを求めることです。罪の赦しをいただいでいなければ救いを求めることです。そして、日々の生活において成長することを求めることです。そして、神が言われたことを実践することです。そして、あなたの信仰をより強固にするために、それを可能にしてください。神に助けを求めることです。そうしてあなたが歩んでいるなら、あなたの内側から感謝が溢れ出て来ます。そのような信仰者へと神は私たちを変えていってくださるのです。

ですから皆さん、私たち信仰者が覚えるべきことは、確かに、私たちが天に行ったときにはすばらしい祝福があります。イエスとともに私たちは永遠を過ごすわけです。罪からも解放されます。しかし、私たちはまだこの地上に居て、神によって救われたことがどんなにすばらしいことかを実際に日々経験しながら、味わいながら生きることができるのです。天国の祝福は天国に行くまで待つ必要はないのです。なぜなら、その祝福がもう与えられているからです。感謝にあふれる生活を私たちは地上にあって送ることができるし、主イエス・キリストの喜びをもって生活することが今できるし、主イエス・キリストが持っておられた平安を今もって生きることができるのです。

では、どうすればそのような生き方ができるのか？「キリストにあって成長し続けること」です。あなたの信仰が成長すれば、あなたをそのような人へと神はあなたを変えていってくださるからです。

「信仰の成長」、それがいかに大切かをパウロはこのように教えてくれています。

最後に皆さん、信仰が成長している人たちは、自分の信仰が成長することで満足しないのです。兄弟姉妹を助けようとします。そして、みんなで成長するのです。「ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。」（1テサロニケ5：11）。こうして生きていくのです。自分も成長し、そして、互いに成長し合うのです。もし、私たちの群れが「私はこの点において弱いから神の助けをいただいて克服できるように祈っておいて！」と、そんなことを兄弟姉妹たちが証しし合っていくとどうなると思いますか？そして、祈り合っていくならどうなると思いますか？間違いなく、祈っている人も祈られている人も変わるし、群れ全体も変わっていくと思いませんか？こうして私たちは一つにされるのです。

サタンは群れをバラバラにしようとしてきました。でも、一人ひとりの信仰が成長し、お互いがお互いの信仰の成長のために歩み続けるなら、私たちは神にあって一つにされていくのです。そして、栄光が現されていきます。だから、パウロだけでなく、私たちが学んだユダもそのことを教えるのです。「あなたがたは、自分の持っている最も聖い信仰の上に自分自身を築き上げ」ていきなさいと。そうすることによって、あなたは様々な間違った教えに対しても、あなたは自分を守ることができますと言います。どうかそのような歩みをもってこの1週間歩みましょう。「どうか主よ、私を変えていってください。成長させていってください。今日聞いたみことばがそれで終わってしまうのではなく、主よ、あなたの助けによってそれを実行できるように。私が成長することによって、私がみんなの前でそれを自慢することではなくて、私を変えてくださっているあなたのすばらしさが証されるために。あなたの栄光のためにどうかこの愚かな私を通してあなたのみわざがなされますように。」と。

神がどのようなみわざを為してくださるのかを期待して、どうか、みことばに従い続けてください。そのようにしてこの一週間歩みましょう。